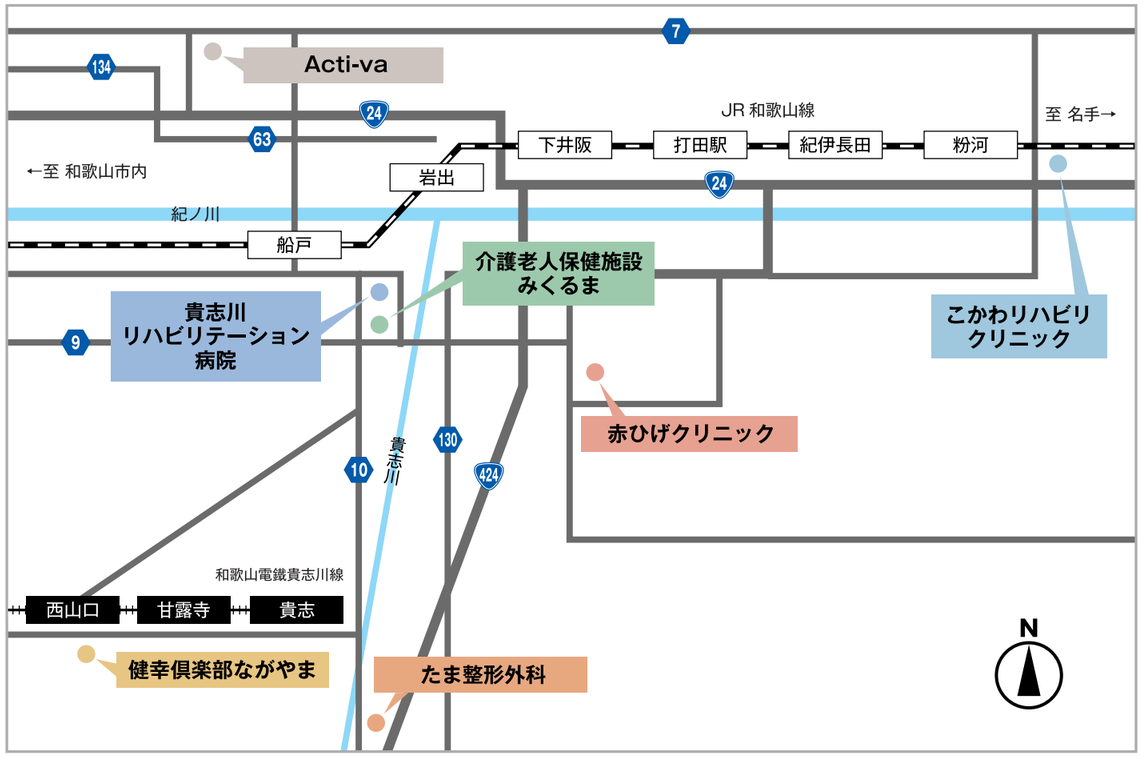


社会医療法人三車会
貴志川リハビリテーション病院

〒640-0401　和歌山県紀の川市貴志川町丸栖 1423-3
TEL.0736-64-0061

関連施設

・在宅総合ケアセンター　赤ひげクリニック
〒649-6123 和歌山県紀の川市桃山町神田 378　TEL：0736-66-9003

・たま整形外科
〒640-0424　和歌山県紀の川市貴志川町井ノ口 974-4　TEL:0736-65-2700

・こかわリハビリクリニック
〒649-6531　和歌山県紀の川市粉河 451-9　TEL：0736-67-7818

・Acti-va
〒649-6202　和歌山県岩出市根来 823-1　TEL:0736-69-0051

・健幸倶楽部ながやま
〒649-1443　和歌山県紀の川市貴志川町長山 583-1　TEL：0736-86-0000

・介護老人保健施設みくるま
〒640-0401　和歌山県紀の川市貴志川町丸栖 936-3　TEL：0736-64-2800

Homepage　Instagram

社会医療法人 三車会 広報誌

みくるま通信

Social medical corporation mikurumakai



2023 Winter
34
TAKE FREE

Photographer：岡野真衣（リハビリテーション部）
Shooting location：丹生酒殿神社（かつらぎ町）
Photo title: 大イチョウ



【基本理念】

1. 患者様・利用者様へ、より安心と喜びを
2. 職員が、生き生きと働ける職場を
3. 地域住民へ、より貢献を

良質な医療・介護の実践を通して、常に努力します。
三つの車で支え合い「医療・介護サービス」を力強く前進させていきます。

CONTENTS

新年のご挨拶
理事長　殿尾 守弘

Makoシステム導入
ロボット支援手術

自動車運転再開支援
リハビリテーション部



三車会公式キャラクター
みくまくん



理事長
殿尾 守弘
Tonoo Morihiro

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

今年こそ本当にいい年を暮らしたいですね。

第二次世界大戦が終結して七十七年、平和が当たり前だと「うさぎの昼寝」をしている間に世界は地政学的に大きく変化してしまった。「うさぎの角、亀の毛」の如く勃発したロシアのウクライナ侵攻、「狐死兎泣」である台湾への中国覇権、「うさぎに祭文」となっている北朝鮮の核・ミサイル開発など国際間の不安定性が「脱兎の勢い」で進んでいる。国内では消費者物価の上昇、給料所得の低延伸、敵基地攻撃能力保有のための増税、少子高齢化による生産性の低下など枚挙にいとまがない。このような内憂外患を抱えた日本においてこれからの医療・介護を含めた安心できる生活保障を担保できるであろうか。

「うさぎの毛で突いたほど」という鈍感さを捨て「うさぎの耳」をピンと立て世界を、日本を俯瞰的に観て「うさぎの股引」にならない「うさぎの糞」「うさぎの兵法」と言われない一貫持続した施策を期待したいものである。それは、「犬兎の争い」なく「獅子は兎を狩るにも全力を尽くす」気構えで進めなければならない。「株を守りてうさぎを待つ」思いではこの低迷した社会からの脱出は叶わないであろう。

このように厳しい社会保障のなか、当みくるま会は総員一致し、汗をかいて皆様方の急性期から在宅までのご満足いただけるお世話をさせていただく所存であります。社会医療法人三車会が「うさぎの上り坂」と言われますよう、今年もご指導をよろしくお願い申し上げます。



和歌山県内初
ロボット支援手術
Makoシステム導入

人工股関節・膝関節置換術に対してのロボット支援手術「Makoシステム」
“メイコーシステム”を導入致しました。
Makoロボティックアーム手術支援システムで関節の機能回復を高いレベルで支援します。



術後の患者様の
いつもの暮らしのために

人工股関節・膝関節に対してのロボット手術は、治療計画にない部分にさしかかると止まる仕組みになっており、計画外の動きを制御することで、安全かつ正確な手術を可能にします。人工股関節全置換術では術後の脱臼率の低減、人工膝関節全置換術では疼痛の低減などのメリットが期待できるとの結果が出ています。
変形性股関節症や変形生膝関節症で悩む患者様が術後、いつもの暮らしを送って頂けるよう、当院では積極的にロボット支援手術を行ってまいります。

関節専門外来
毎週 火曜日・木曜日の午前診察
（予約制）



「この地で暮らす」を支えたい

自動車運転再開支援

リハビリテーション部

ここ和歌山は、自動車がなければ生活していくことが困難な地域です。
朝起きて仕事に行く、スーパーで買い物をする、子供の送り迎えなど
この地で暮らしていくには自動車は欠かせない移動手段です。
当院でも脳卒中の後遺症などでリハビリに取り組まれる患者様の中に
運転再開を希望される方がたくさんいらっしゃいます。
そんな患者様たちの「この地での今後の暮らしを支えたい」という想
いで、私たちは自動車運転再開支援を行っています。



患者様が安心して運転再開に向けて
準備ができるように支え続ける

リハビリテーション部
副主任　作業療法士
橋本　竜之介

自動車運転再開支援とは

自動車運転再開支援とは、患者様が安全に運転できるのかを評価しサポートしていく取り組みです。道路交通法では、「一定の症状を呈する病気等」に該当する場合は医師の診断書を求められることがあり、その診断書を基に運転免許センターで運転が可能であるかどうか判断されることがあります。
当院では自動車運転再開におけるしっかりとした評価と支援を行います。神経心理学検査（机上）やドライビングシミュレーター、実車評価などを行い、その方に合わせたプログラムを提供致します。患者様が安心して運転再開に向けて準備ができるように支援させて頂きます。

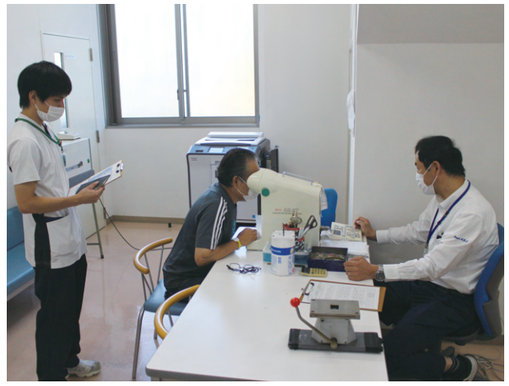


自動車運転再開における操作練習ユニット



2台のドライビングシミュレーター

ドライビングシミュレーターとは実際に車に乗らなくても、モニターを通して実際の運転に近い環境で自動車運転を体験できる機械です。当院ではここ和歌山という土地柄の運転需要に対応できるようドライビングシミュレーターを2台導入しています。市街地や山岳地帯などを走り、交通ルールを守りながら事故をしないように走行して頂きます。なかには、事故を誘発する危険なシーンもあり、患者様の実際の運転能力をきちんと評価でき、そのようなシーンの対処法を学んでいくことで安全な運転動作の獲得を図っていきます。またコース走行後のリプレイ機能も備わっており、ご自身の運転を振り返ることができることで、患者様ご本人の認識と実際の運転能力の差をできるだけ小さくし、検査では気づけなかった自身の問題点を把握する事ができます。



地域の自動車学校との連携（視力検査）



地域の自動車学校との連携（トラックの実車評価）



ハンドルノブ



左アクセルペダルの改造車

支援の“カタチ”を広げて支える

当院では、地域の自動車学校と連携した「実車評価」も行っています。院内のドライビングシミュレーターなどで見られた問題点を踏まえながら、自動車学校の教官と当院の作業療法士が同乗し、教習所のコースを実際に走行して頂きます。一般の自動車の評価以外にも、ハンドルノブを使用した評価や、左アクセルペダルの改造を施した車両での評価も行っております。通常の自動車では操作が困難で、運転再開を諦めなければいけない人でも、改造車という選択ができることは、この地で暮らすという意味では非常に大きな希望なのではないのでしょうか。今後も患者様が安心して運転再開に向けて準備ができるように、支援の“カタチ”を広げ、体制を強化し、患者様の「この地で暮らす」を支えていきたいと思っております。